

平成 28 年度 まちづくり移動町長室（中里、元町北、元町南地区）

日 時 平成 28 年 6 月 11 日（土）19 時 00 分～21 時 00 分

場 所 ラディアス ミーティングルーム 2

参加者 26 名

西友前交差点の安全対策について	
参加者	平成 27 年 2 月に西友前の交差点を安全に横断できる手段を作ってほしいという内容で二宮町議会にも陳情させてもらい、2 回ほど話し合いをさせてもらった。その後、町議員の方から「中里地区としてどうしたいのか、もう設置を諦めたのか」と言われた。町長は交差点を安全に横断できる方法についてどう考えているか。
町長	現場では警察によるシミュレーションが行われ、その結果説明があった。地域からはエレベータを設置できないかとの提案もあったが、県道を管轄する神奈川県は財政状況を考えると現実的ではないだろうし、考えられるのは横断歩道ということになる。しかし横断歩道の設置は渋滞を引き起こす可能性があるとしてシミュレーションで表されており、横断歩道を設置すれば西友前の交差点だけでなく、他の箇所でも渋滞を引き起こす可能性があるとのことで様々な検討をしてきた。階段の昇降による負担を考えると、横断歩道が良いのではないかと考えているが、他の地区からは渋滞への影響を懸念する声もある。安全面を考え、押しボタン式横断歩道の設置など渋滞にも配慮した方向で神奈川県や警察にも働きかけたい。
参加者	朝の時間帯などは横断する人が少ないので渋滞は起きないのではないかと。
町長	国道 1 号と県道 71 号が交差する二宮交差点では歩車分離としたが、朝夕の時間帯は渋滞が発生している。安全面と渋滞緩和を考えながら検討したい。
地区長	設置は難しいとの警察からの回答を受け、地区内でも話し合った。通勤時間を除いた時間限定の押しボタン式横断歩道を設置できないかをお願いをしたい。
町長	押しボタン式横断歩道の設置に向け働きかけたい。

災害備蓄及び町有未利用地利活用	
参加者	災害時備蓄について、町ではどのくらい備蓄しているのか。 また東大果樹園跡地の未利用地利活用について、具体化していないようだが現状どうなっているのか。
政策総務部長	神奈川県が想定する神奈川県西部地震が起きた場合における町での全壊・半壊が 280～300 棟との想定を基に 15,000 食の備蓄をしている。計算方法としては倒壊棟数×1 日 3 食×平均世帯員数 3 名×5 日分と、災害発生時の帰宅困難者分

	も考慮に入れての備蓄量である。
町長	東大果樹園跡地について、公共施設再配置・町有地有効活用等検討委員会を発足させ、コンサルタント業者も決定した。調査をしながら活用方法を検討するが、町単独ではなく民間活用も考えながら進める。また方向性が決まり次第、意見交換の場を設けたいと考えている。

下水道事業について	
参加者	下水道事業について、下水道接続状況はどのくらいか。下水道使用料を改定するとのことだが、接続できる地区の全世帯が接続すれば使用料の値上げをしないでよいのではないか。
都市部長	平成 26 年度の人口ベースでは 74%の接続率、世帯ベースでは 79%である。
参加者	接続率を高めるためには可及的速やかに接続するとするのではなく、明確な期限を設けるべきではないか。
都市部長	町としてもできるだけ早く接続してもらえよう個別勧奨しているところである。

一色小学校区地域再生事業について	
参加者	一色小学校区地域再生事業の活動の中には、地域福祉計画や地域包括ケアシステム等と関わる部分もあるのではないか。また横断的課題解決力の向上とあったが、横の連携はどうか。
町長	一色小学校区地域再生事業には 6 部会があるが、地域の人が集まるだけでなく地域包括ケアシステムにも関わってもらうことを想定している。将来的に 6 部会が自立して続けていけるようになるかと思っている。
地域包括ケアシステム担当課長	横断的課題解決力として、一色地区や緑が丘地区など範囲を広げ、百合が丘社会福祉協議会と協働し話を進める。庁内においても福祉保険課と連携し、地域福祉計画の地域懇談会に地域包括ケアシステム担当も出席して進めていく。

庁舎の耐震と積立金について	
参加者	熊本地震を受け、庁舎の耐震はどうなのか。また建替えの基金積み立てはあるのか。
町長	庁舎は昭和 53 年に竣工し、平成 8 年に耐震診断を行った。A～E の診断結果がある中で、庁舎は D ランクであった。小中学校や他の公共施設の耐震化等を優先してきたため、庁舎の耐震化ができていない状況である。ただ災害が発生した場合、庁舎機能が麻痺してしまうと救援等も困難になってしまう。公共施設

	の再配置の中で庁舎の見直しも考えていたが、庁舎は公共施設の再配置とは別に先行して考え進めていく課題である。また耐震補強等は庁舎の形状的にも困難な部分があるため、専門家に調べてもらいつつ進めていく。
財務課長	耐震指標といわれる IS 値は 0.6 が人的被害を抑えられるであろうとされている数値であるが、庁舎の中で一番低い場所は 0.48 であり 0.6 を下回る状況である。また積立金は無い。

町内民間書店について	
参加者	一色にあった大型書店が無くなって不便である。書店を町内に誘致してほしい。
町長	町内には書店が 1 店舗ある。町として個別の店を誘致するのは難しい。

二宮町の人口ビジョンについて	
参加者	人口ビジョンのシミュレーションでは 20 年後に 6,000 人も減少することになっているが、財政規模や行政サービスはどのようになっていると考えるか。
政策担当 参事兼企 画政策課 長	20 年後の財政規模については現在、予想できていないが、公共施設の再配置などを進めていく上で財政規模は大事な話になるので、人口減少を踏まえた財政シミュレーションの作成に取りかかったところである。

高齢者の交通安全対策等について	
参加者	大磯警察署の話では国道 1 号での高齢者の事故が多いとのことであるが、町として対策をしているのか。また子育て事業を進めているが、高齢者のことをどう考えているのか。移動が困難な地域の対策を交通安全面なども踏まえて聞きたい。
町長	国道 1 号の事故防止について、街路灯等は LED に変更したため照度は高くなっているが、暗い箇所や横断歩道もない箇所もあるので啓発活動をしていきたい。また、高齢者に対する町の事業として、地域包括ケアシステムの構築などに取り組んでいる。医師や介護事業者、社会福祉協議会、行政、ボランティアの力を合わせて生活の不便なところを補えるよう進めている。地区ごとに必要なものは違うので職員が出向いて話を聞きながら進めていきたい。 バスの路線廃止等により移動手段少なくなっている地区もあるが、コミュニティバス等で補えるよう整備している。一定のサイクルで周れるようになっていくが、利用してもらわないと採算がとれない。地区の方も利用してもらえよう話を進めたい。

交通について	
参加者	ラディアン前から中里にかけての旧県道のスピード違反の取締りをしてもらいたい。さらに旧県道を逆走するバイク等がいる。菜の花ウォッチング中に一方通行の立て看板が設置されていたがこの案内は効果があった。 また駅北口の転回場は人の乗降ができるのか。明確に基準を決めたほうが良いのではないか。
都市部長	町としては小学校前で乗降をしてもらい、転回場は車の方向転換のみを想定し整備したが、実際にはそのように利用されていない状況である。転回場は道路の扱いではなく広場の一部ということで道路交通法の規制ができる場所ではないため、強く禁止していくのか乗降を認めるのか意見を参考に検討したい。